

あなたに伝えたい

<p>ある日</p> 	<p>「あっち掃除してって言ったでしょ！しかも花ちゃんはほうきじゃなくてぞうきん！いつも来るのが遅いじゃない。おしゃべりしてて来るのが遅いよ！みんな待っているんだよ！」班長のあき子は、みんなに聞こえるような大きな声で注意した。男子も「そうだ。そうだ。」と口をそろえる。「ひどい・・・。」と花ちゃんは泣きながら帰りました。</p>
<p>その夜</p> 	<p>その夜、花ちゃんは悲しくなってお友達のリカちゃんに泣きながらメールをします。</p>
<p>花子ちゃんからリカちゃんへのメール</p> 	<p>リカちゃんへ聞いて。今日ね、あき子にいじめられた。男子の前で悪口を言われた！もう信じられないよー。ひどすぎて涙とまりません。この前もいやみ言われたし。もう学校いきたくない！いじわる言われるから・・・。」</p>
<p>リカちゃんはびっくり</p> 	<p>そのメールを受け取ったリカちゃんは・・・「えー大変！とあわてて花ちゃんに返事を送ります。あき子に対してはひどいと怒っています。「はなちゃんへ あき子がそんないじわるしてたの？知らなかった！！花ちゃん、泣かないで。明日、あき子のことみんなに言うから大丈夫だよ。」</p>
<p>次の日</p> 	<p>「今日の欠席は春野花子さんです。腹痛です。」</p>

休み時間・・・



「花子ちゃん、昨日帰りに泣いてたんだよね。」
「どうしたのかな？ なにかあったのかな。」「実は昨日花ちゃんから泣いてるってメール来たのよ。」
「えーっ！ どうしたの？」「あき子ちゃんにいろいろ男子の前で言われたらしいんだよね。いじめられたって書いてあったもん。」
「それはひどい！」「ほら、前にもいろいろ言われたらしいんだよね。花ちゃん言い返せる子じゃないさあ。だからいじめやすいんじゃないのお。」

花子の欠席の理由はわたし？



「リカちゃんが花ちゃんが昨日夜に、あき子ちゃんにいじめられたってメールきたってみんなに言ってるよ。学校行きたくないって書いてあったんだって。」
『えー？』『花ちゃんのメールアドレス聞いて謝りのメールしてみたら？』

花子



あき子は学校を休んでいる花ちゃんについて考えました。花ちゃんになにをしてあげたらいいのだろう。
あき子はなぜそう考えたのだろうか・・・

休んだ花子ちゃんは・・・



「どうしようかな・・・。リカちゃん、あき子ちゃんに言ったのかな。あきちゃんにきついこと言われて学校休んじゃったけどわたしも悪かったんだよね。りかちゃんにあきちゃんの悪口書いたから学校行きづらいな。あきちゃん、まだ怒っているかな。いつもわたしにきついんだよね。あきちゃん・・・。学校明日どうしようかな・・・。」ピンポン！！

花子



「花ちゃん・・・大丈夫？」「あきちゃん！！」
「ごめんね。花ちゃん。いじわる言っているつもりはなかったの。ほんとだよ。でもいらいらしてえばっていたかもしれない。ごめんね・・・。」
『あきちゃん、わたしこそごめんね。掃除遅れたのはわたしが悪いし。あきちゃん悪くないよ。』

「あのね、花ちゃん。リカちゃんが心配して、花ちゃんタベ泣いてたって。わたし、全然花ちゃんの気持ち考えないで注意してたね。」

『ごめんね・・・あきちゃん。そこまで考えてくれたんだ・・・。わたし、昨日リカちゃんにあきちゃんの悪口書きちゃったんだ。ごめんね。』

「花ちゃん・・・今日夜にメールしていい？」あき子が嬉しそうに言う。



その夜、花ちゃんとあき子とリカちゃんは互いにメールを送りあいをしました。3人は気持ちがあたたかくなる気がしました。

まるで心のかけ橋みたいのようでした。

翌日の
教室で・・・



次の日、教室で楽しくおしゃべりをする3人の姿がありました。・・・おしまい・・・